

【研究種別欄, この欄は担当が修正する可能性があります】

## (1) 若年女性を対象とした動画を用いた摂食速度評価の測定ツールの開発

### 動画を用いた摂食速度の自己評価ツールの完成

保健・医療・福祉政策システム領域  
大学院博士後期課程 千葉綾乃  
(指導教員 吉池信男)

#### 背景

##### 摂食速度の評価

- ▶自己申告を用いる場合が多い
- ▶主観的な認識の下に判断される
- ▶セルフフィードバックするための手段やツールが不十分

#### 摂食速度の「基準」が必要

#### 結果・考察



図1自己評価ツールのイメージ図  
①とても速い②やや速い③ふつう④遅い

#### 【活用方法】

スマートフォンで動画を視聴してもらい、4つの中から自身の食べ方に最も近いと思うものを選択してもらう

#### 目的

- ▶実際に食べる場面を撮影した「基準」となる動画を作成
- ▶「基準」を用いた自己申告による評価ツールの開発

#### 方法

- ▶対象者: 青森県立保健大学健康科学部女子学生(20歳以上)の50名
- ▶初回調査(摂食速度の観察・測定と摂食に関わる質問紙調査)、**摂食速度の「基準」を示した動画ツールの作成**、2回目調査(自己評価ツールの1回目の試行と摂食に関わる質問紙調査)、**3回目調査**(自己評価ツールの2回目の試行、他の食品を用いた再測定)を実施
- ▶指標間の関連性を調べ、実際の摂食速度と自己申告、自己評価ツールの誤差を求めた

#### 【実際の摂食速度との関連】

- ▶従来の質問紙(2回目調査)  
 $r=0.482(p<0.001)$
- ▶自己評価ツール(2回目調査)  
 $r=0.491(p<0.001)$

→評価ツールは質問紙よりもやや相関が強い

#### 【摂食速度評価の誤差】

- 従来の質問紙 VS 自己評価ツール
- ▶従来の質問紙(30%)は自己評価ツール(10%)に比べ実際の摂食速度より遅いと評価した割合が多い
- 栄養教育の対象となる早食いの人を見落とす可能性が高くなる

#### 【自己評価ツールの再現性】

- ▶試行1回目と2回目  
 $r=0.413(p=0.003)$  →再現性あり

#### 【食品の妥当性】

- ▶いなり寿司とロールパンの咀嚼回数  
 $r=0.845(p<0.001)$  →妥当である

#### 【自己評価ツール】

- ▶簡便
- ▶低コスト
- ▶集団への適応可能
- ▶「基準」を設けることにより過小評価の誤分類減少(精度UP)

教育的介入の評価指標として活用予定

動画を用いた自己評価ツールは、摂食速度のより望ましい評価方法である